

**Q1: 今後のM&Aの戦略をお聞かせください。**

A1: コンクリート事業に関わらずシナジー効果が見込まれる会社は当然のことながら、将来展開を見据え、良い企業があれば、引き続きM&Aを積極的に行っていきたいと考えております。

**Q2: 設備投資は今期も15億円程度の計画でしょうか。その計画を教えてください。**

A2: コンクリート事業、防災事業に関しましては、型枠への設備投資や新製品の開発等を計画しております。また、工場の統廃合等も踏まえ、常に投資をしていかなければならないと考えており、設備投資は前期と同金額程度を予定しております。

**Q3: その他事業の営業利益は、プロフレックス社が子会社になったが、前期5億4千万円から今期5億9千万円と微増です。プロフレックス社が貢献できる時期等の事業計画の概要を教えてください。**

A3: グループ会社になったことにより、当社とシナジーの効くエリア展開を計画しております。プロフレックス社の従来強みのある東方面に加え、弱点であった西方面への展開により成長させていく計画であります。そのような施策を実行することにより、7~8年で当社収益に貢献してくるものと考えております。

**Q4: 今期増益予想の要因として大きいのはコンクリート事業だと思われます。今回の決算説明会資料で、販売量の効果や販売単価の効果を掲げていますが、今期はその部分のどのような貢献を考えて増益計画としたのでしょうか。**

A4: 販売量は、前々期と比べ前期は減少している状況でありましたが、今期は販売量を維持しながら、さらなる製品ミックスの改善を行う計画としております。浸水対策事業の特殊製品に関しましては、ベルテクス独自のスパイラルホールをはじめ、他社にはない製品で地域の拡大が徐々に進んできている状況であり、もう少し高いレベルの高付加価値製品の拡販が軌道に乗りつつあります。また、積雪地帯に向けた無散水融雪パネルについても、今期非常に好調な計画を予定しており、販売量が少なくても単価が高い製品の比率が増えている状況を念頭に増益計画としております。

**Q5: 製品の優位性が強みだと思うが、具体的に御社の中でこういったポイントが、他社にはつくりえない物をつくり、技術力の高さを示しているのか教えてください。**

A5: 特許の保有数等は、業界のトップクラスであります。また、お客様の声などをもとに、開発部門の新たな発想力の具現化や販売に展開する力など、全てが連動している状況が当社の強みであると考えております。また、技術研究所を作ったことにより、この強みを更に発揮していきたいと考えております。

**Q6: 期初予想に対しての売上減収は、どの部分がマイナスだったかを教えてください。例えば汎用品の値上げ分に対して数量が伸びなかった等の要因があれば教えてください。**

A6: 期初計画していた大型物件の売上延期等の要因による取り込みが不足した結果であると分析しております。汎用品は単価も量もある程度確保できたと認識しており、期初予想に対してのマイナス要因とは認識しておりません。

**Q7: 大型物件の取り込み不足の要因は、他社の影響によるものか、発注者側の状況によるところが大きいのかを教えてください。**

A7: 発注者側の状況である工事の延期及び中断等が主要因であると分析しており、他社の影響による失注などは概ね無かったものと認識しております。

**Q8: 御社の販売単価伸び率は、基本的にコンクリート事業の売上/出荷トン数で確認し、製品の値上げやトン数に対する売上貢献の少ない製品を撤退して実現したものを教えてください。**

A8: ご指摘の通りの認識で相違ございません。コンクリート事業で進めた戦略的な高付加価値製品へのシフトに伴う、製品ミックスの見直しにより、前期計画値を上回る136%という成果を得ることが出来たと認識しております。

**Q9: のれん36億円は、全部プロフレックス社に対するものであるかを教えてください。  
また、新しい分野やシナジーのある分野に成長分野として投資検討する場合のバリエーションは、今回と同程度のもを検討していくかを教えてください。**

A9: のれん金額は、全部プロフレックス社に対するもので認識に相違はございません。  
基本的には、当社の強みのあるコンクリート事業と防災事業にシナジーのある成長分野を伸ばしていきたいと考えております。今回のプロフレックス社は技術力を有するものの営業力が不足する部分に対し、弊社の建設会社や自治体等への営業力とのシナジーが非常に働くとの判断で投資にいたしました。また、来年度の労働環境における2024年問題で変化が予想されるビジネスモデルにあわせた投資判断も必要になるとは考えておりますが、違う業種を次々と検討するということは考えておりません。  
現状、プロフレックス社の原材料はゴム資材関連が多く、コンクリート事業に比べ資材価格高騰の影響はありましたが、今年度から価格改定の取組みを行ったため、徐々に収益力を回復し、予定より早く回収できるものと考えております。

**Q10: 株主還元方針として、総還元性向30%を目途として実施する方針でありながら、今年は48%が予定されています。今後も、30%で固定化する方針ではないという考え方であるかを教えてください。**

A10: 総還元性向30%で固定化する考え方ではなく、自己株式の取得や投資などを多面的に検討し、柔軟かつ機動的に実施してまいります。  
なお、来年度、第3次中期経営計画を発表予定であり、その際に方針を公表させていただきます。

以上